

Aichi あいちの学童保育

県連協ニュース 2023-No. 4

2023年12月11日発行
愛知学童保育連絡協議会

TEL: 052-872-1972 FAX: 052-308-3324
Email: aichigakudou@gakudou.biz



第58回全国学童保育研究集会が 開催されました



全国研1日目は東京都多摩市のパルテノン多摩とオンラインにて行われました。現地会場の様子を報告します。1日目の主な内容はオープニング、基調報告、特別報告、記念講演です。オープニングは全国各地の8つの学童保育所をZoomで結び、踊りや歌、一輪車、こま、けん玉などが披露されました。技や決めポーズが決まるたびに現地会場からは拍手が起こっていました。オープニングに引き続き、戸塚会長による基調報告、福島の実務者、高知の指導員、東京の保護者からの特別報告があり、震災からの復興と幼保小中一体の学び舎ゆめの森のお話、指導員さんが指導員になったきっかけと続けている理由、子どもも自分も学童保育と保護者会によって救われたという保護者のお話など、研究集会に集う様々な立場の方の話が聞けました。ほいく誌アピールでは、愛知を含む各地からのビデオと、5月号を題材にした寸劇がありました。記念講演では京都教育大の丸山啓史先生により「どの子ども受けとめる学童保育をめざして」と題した講演が行われました。しょうがいのある子どもが学校に通うことや経済的に通わせられない家庭の子どもが学童保育に通うこと、そして子どもたちの今と将来のための気候変動についてのお話で、私たちが

なにをすべきかを考えさせられるものでした。なお、現地会場には、規模は小さいものの書籍販売コーナーもありました。最後に来年の開催地、岡山の皆さんが横断幕を出していました。私は現地スタッフとして参加しましたが、いつもは画面越しの全国連協役員や全国運営委員の皆さんと顔を合わせることができ、交流を深める機会となりました。

全国研2日目は桜美林大学のプラネット淵野辺キャンパスで行われました。参加者に若い指導員さんたちの姿が多数見られ、全国研だなあ、と感じました。私は第27分科会に参加しました（研究集会では、なるべく自分の苦手な分野に参加するようにしています）。講師の石原先生からの貴重なお話が聞けたのはもちろんですが、参加者から全国の様子を聞くことができ、参考になりましたし、議題についての理解も深まりました（翔んで埼玉ではありませんが、やはり東京は別格です）。また、休憩中に講師・世話人と参加者が雑談するなど、現地開催ならではの楽しみもありました。淵野辺キャンパスでも出口付近で岡山の皆さんのアピールがありました。2024年11月16日、17日のようですので、ぜひ、早めにご計画いただき、現地やZoomでの参加をお待ちしています。

（あいち全国研プロジェクトチーム 藤田）



補助金コラム

教えて賀屋さん



「使っていますか？補正予算
—2023年度の補正予算の概要が
発表されました」

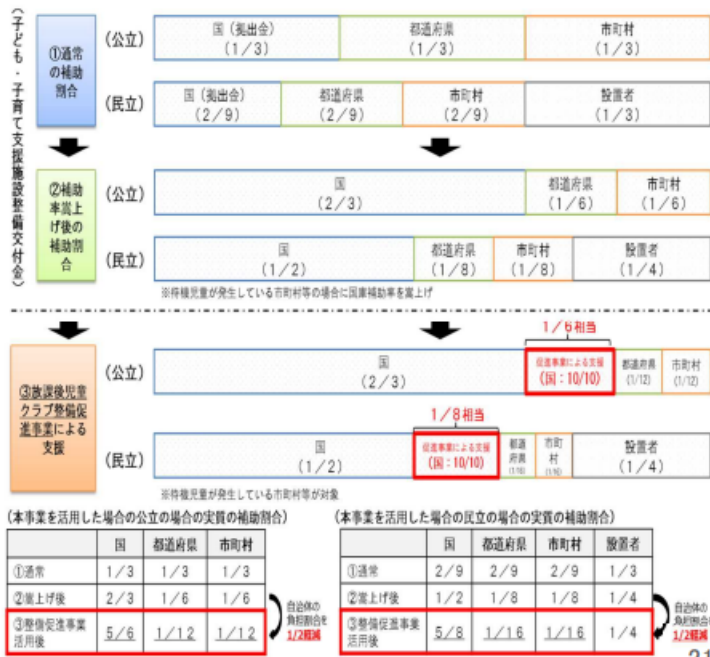
補正予算は、通常の補助金以外に出されるものですが、例年12月から翌年の2月頃に出されるため、年度の残り期間が少なく、市町村の対応によっては使えないものが多くあります。

2023年度は11月に「放課後児童クラブ整備促進事

業」「放課後児童クラブ等における ICT 化推進事業」「保育所等における性被害防止対策に係る設備等支援」の3つの補助金が学童保育に使えるものとして発出されました。

「放課後児童クラブ整備促進事業」は、待機児童が発生している市町村が対象となります。公立の場合 1/6 相当、民立の場合 1/8 相当を子ども・子育て支援施設整備交付金に国が上乘せするというものです。

事業イメージ



※令和5年度補正予算 施策集より（子ども家庭庁）

「放課後児童クラブ等における ICT 化推進事業」は、毎年のように補正予算が出ていますが、今年度はオンライン会議やオンライン研修をおこなうために必要な経費（上限・1 か所 50 万円）及び通訳サービス等の使用に必要な経費（上限・1 か所 15 万円）を主目的として出されています。

「保育所等における性被害防止対策に係る設備等支援」は、性被害を防止するために設備を整備する費用を補助するものです。この設備には『パーティション』『簡易扉』『簡易更衣室』『監視カメラ』が含まれます。特に『簡易更衣室』は、ワンルームの学童保育であれば、子どものためにも学童保育指導員のためにも活用できますね。

この3つの補助金は、他の補助金と同じで、市町村が実施しない限り使えません。また、補正予算なので、2023年度内に使うことが基本ですが、こちらも市町村との話し合いで、弾力的に運用ができることが多くなっています。使いたい補助金があれば、まずは市町村の担当課と話し合いましょう！

令和5年度補正予算 一覧	
放課後児童クラブの受け皿整備	<ul style="list-style-type: none"> 待機児童が発生している市町村等における施設整備費の自治体負担分に対し、国が財政支援することにより、放課後児童クラブの整備を更に加速させる。 学校の敷地外で放課後児童クラブを利用することも地域の子どもが共に過ごし交流する場の一体的な整備を推進する。
放課後児童クラブ等における ICT 推進事業	<p>放課後児童クラブをはじめとする地域子ども・子育て支援事業において、業務の ICT 化を推進するとともに、オンライン会議やオンライン研修を行うために必要な経費、通訳サービス等の使用に必要な経費を支援することにより、利用環境を整備し、職員の業務負担の軽減を図る。</p> <p>【実施主体】市町村（市町村が認めた者に委託可）</p> <p>【補助率】 国：1/3、都道府県：1/3、市町村：1/3</p> <p>【補助基準額（案）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★業務の ICT 化等を行うためのシステム導入 1か所当たり 500,000円 ★翻訳機等の購入 1か所当たり 150,000円
保育所等における性被害防止対策に係る設備等支援	<p>保育所等における子どもの性被害防止対策のため、パーティション・簡易扉・簡易更衣室等の設置、保育状況の説明要望等に応えるカメラを活用し保育の内容を記録するなどの取組に対して補助を行う。</p> <p>【実施主体】都道府県、市区町村【補助割合】国1/2、都道府県等、1/4、事業者1/4</p> <p>【補助基準額】1施設あたり 100千円</p>

第40回あいち学童保育研究集会のお知らせ

2024年3月3日の研究集会に向けて、地域の実行委員の皆さんと一緒に毎月の実行委員会で話し合いを重ね、本格的に内容を考える段階に進んでいます。午前の全体会は杉田真衣さん（東京都立大学人文社会学部准教授）に『子どもの多様性と学童保育について』について講演いただくことになりました。午後の分科会は13程度を予定しています。

ニュース第2号も発行されました。また、地域の皆さんの力作揃いのカウントダウンが、今年も11月1日（あと123日）に始まっていますので、ぜひお楽しみください！

あいち研究集会は学童保育に関わられる方と交流できるきっかけになると思います。県連協の運営委員会でも地域の参加目標を伺いましたが、これから決めていただく地域もあります。指導員の皆さん、そして一人でも多くの保護者の方が、研究集会の参加に一步、踏み出せるよう地域での応援・後押しをよろしくお願いいたします。目指せ！600人！！

（あいち学童保育研究集会事務局 三輪）



午前:全体会 記念講演 ※後日配信あり
パブリックビューイング+ネット配信
講演者 杉田 真衣さん(東京都立大学)
テーマ:子どもの多様性と学童保育について

午後:分科会 13分科会(予定)
現地会場(労働会館)もしくはオンライン(Zoom)

[あいち研究集会ホームページ](#)はこちら
カウントダウンも絶賛掲載中です!



第40回のZoom背景が完成しました!「Zoom」では、バーチャル背景に壁紙を設定することができます。みんなでそろえて、研究集会を盛り上げていきましょう!画像は、上記の二次元コードよりダウンロードしてください。

みんなで話そう学童保育ひろば in 春日井
開催のお知らせ



2024年2月3日(土)13時より、Zoomにて「ひろば」を開催します。テーマは“現状と次世代のための学童保育”で、まず春日井の学童保育の現状やクラブの紹介してもらいます。

そして、日々の課題や悩みなどを中心に春日井との交流を深めたいと思っています。毎回「ひろば」を通して、各地域との繋がりも広がっていますので、これを機会に春日井の学童保育を学んでみませんか!ぜひ、皆様のご参加をお待ちしております。

ほいく誌コラム

【ほいく誌は研修の教材としても活用できますよ】

僕はとときどき研修の講師を担当します。そのときに、ほいく誌の記事を教材として活用しています。



以下、最近の研修のテーマと教材として活用した記事をご紹介します。

- 放課後児童支援員認定資格研修
 - 科目⑫「学校・地域との連携」
⇒2018年8月号『地域のなかの学童保育』について考えるために』柴田謙治さん(金城学院大学)
 - 科目⑮「放課後児童支援員の仕事内容」
⇒2020年3月号『記録を記し、皆で深めあうことを大切に』山岡洋志さん(埼玉・指導員)
- 子育て支援員研修(放課後児童コース)
 - 科目③「子どもの発達理解と児童期(6~12歳)の生活と発達」
⇒2018年1月号『子どもの自己理解の発達に大人ができること』小川絢子さん(名古屋短期大学)
 - 科目④「子どもの生活と遊びの理解と支援」
⇒2022年7月号『子どもにとっての遊びとは』代田盛一郎さん(大阪健康福祉短期大学)
 - 科目⑤「子どもの生活面における対応」
⇒2022年3月号『経験を積み重ね、自ら判断できる力を育む』安井尚美さん(愛知・指導員)

これが購読や部数の増加につながるかはさだかではありませんが、少なくともほいく誌を知るきっかけにはなっていると思います。

岐阜県の放課後児童支援員認定資格研修では、岐阜県連協がほいく誌の見本誌を無料で配布しているので、それを手に取って持って帰る受講生(指導員)は多いように思います(結構な数があつたけどなくなったような記憶があります)。

全国的には、ほいく誌の購読数は減少していますが、学童保育のか所数や指導員数は増加しているわけで、ほいく誌のような専門誌を必要としているところやヒトは多いはずだけれども、それらが正比例しないのは、やっぱり出版不況なのかなとも思います(教育新聞の営業をいくら断ってもへこたれずに来るということは、教育業界でもなかなか購読数が増えないのかなと思う)。だがしかし、学童保育の専門誌と呼べるようなものが、ほかの業界と比べてあんまりないなかで、ほいく誌の役割は依然として高いと言えるのも確かであると思っています。

(岡崎市 学童保育指導員 平岩)